

令和3年度 学校評価表(計画・中間・**最終**)
【5月初旬・11月末・**3月初旬**】

学校名(熊野町立熊野中学校)

a 学校教育目標	「前向き (Be positive.)」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	心豊かで確かな学力を備えた教育の推進 地域に開かれ、地域の期待に応え、地域から信頼される学校の創造 地域を愛し、地域から愛され、地域に生きる子どもの育成
-------------	----------------------	-------------------------	--

評価計画(5月初旬提出)				自己評価					学校関係者評価			n改善方策				
c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h	h	i	j 評価 A~D 4段階 評価	k 結果と課題の説明 (短期経営目標につ いての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コメント	11月	3月	
					達成値	達成値	h/g 達成 度			イ 適正	ロ 不適 正	ハ 分 か ら な い				
学んで良 かった学 校	安心して学び確実に 力を付けることができる。	【目標や価値の共有】 1 主体的に学ぶ授業づ くりを核に、本校で育成 したい「資質・能力」を育成 する。(資質…協働, 前向 き 能力…自己分析力, 表現力, クリティカルシン キング) 2 生徒会執行部を中心 に、本校の伝統の継承と 発展、創造を目指して取 り組み、SSR等を機能さ せ個に応じた学びの機会 を選択できることで安心し て通え、更に充実して学 べる学校にする。	1-①タブレット端末活用等 個別最適な学びを取り入れ 学力の定着を図る。	80%	未定	96.0%	120.0%	A	○全国比が3年生は 98.8%, 2年生は 108.2% ●3年生1教科, 2年生4教科で昨年 度より向上	67%	0%	33%	△全国平均より大幅に落 ち込まないことを期待す る。 △目標値は100%が適切で はないか。	・引き続き、タブレットや電 子黒板を授業等で積極的 に活用する中で、ICT活用 の効果を見取っていく。	・目標値については 再考する。今後も全 国比110%を目指し、 学力向上に努める。	
			1-②PBLや質の高い問い の工夫により「資質・能力」 の育成を図る。	100%	6月 76.4%	10月 74.3%	77.7%	77.7%	C	○中間評価より肯定 的な評価の割合が 3.4ポイント上昇 ●表現力も上昇した が、70.9%	80%	20%	0%	○メタ認知ができてい る生徒ほど、値が低くなる面 もある。 ●目標値が高すぎるので はないか。	・授業等において、発言・ 記述等様々な方法で、生 徒が表現する場を増やし ていく。	・メタ認知評価を継 続するとともに、表 現力に関する見取り について研究を進め る。
			2-①生徒の主体性を生か した活動を拡大し、企画力・ 実行力を育てる。	100%	6月 82.8%	10月 81.1%	86.9%	86.9%	B	○コロナ禍の中、行 事や活動について ICTを活用し、工夫し た取組を実施 ○中間評価より肯定 的な回答の割合が 5.8ポイント上昇	80%	20%	0%	○コロナ禍の中、しっか り取組を行っており、 評価できる。 ●80%超ですごい数値では ないか。	・肯定的な回答をしてい ない2割弱の生徒を具体的 に把握し、個を意識した取 組を進める。必要に応じ、 ケース会議も行って いく。	・引き続き、生徒会 等を中心に、コロナ 禍でも行事や活動が 実施でき、充実する よう工夫する。
			2-②SSRの機能化を図 る。		「学校は楽しい」への 肯定的回答の割合	100%	6月 82.8%	10月 81.1%	86.9%	86.9%	B	○面談の中で、目標 の連鎖について確 認 ○教職員個々が意 識して実践	80%	0%	20%	○働きやすい環境が整え られている。 ●本音で回答することが できているか、考慮必要。
働いて良 かった学 校	やりがいと喜びを もって取り組める。	【職能成長と働き方改革】 1 教職員として、やるべ きことやりたいことをや り遂げる。 2 社会人として、無理や 無駄のない働き方を求 め、生活の充実を求め る。	1-①目標の連鎖をさらに 意識して業績評価シートを 作成し、工夫して取り組む。	100%	100%	100%	100%	A	○面談の中で、目標 の連鎖について確 認 ○教職員個々が意 識して実践	80%	0%	20%	○働きやすい環境が整え られている。 ●本音で回答することが できているか、考慮必要。	・下半期も業績評価の目 標を意識した職員個々の 取組とし、学校教育目標 の達成を目指す。	・次年度も業績評価 を効果的に活用し、 目標の連鎖を図る。	
			1-②個々の教職員の取組 を組織で支える。	100%	88.5%	100%	100%	A	○教職員間の支援 体制は概ね構築	80%	0%	20%	○働きやすい環境が整え られている。 ●本音で回答することが できているか、考慮必要。	・分掌や学年を超えても支 援体制がとれるよう、更な る情報共有に努める。	・引き続き、企画委 員会や分掌会の報 告を確実にに行い、情 報共有を徹底する。	
			2-時間外勤務の縮減とや りがいとを両立させる。	時間外勤務(a)の縮 減	月間(a) を80時 間未満	79.7%	82.9%	82.9%	B	○教職員は退校時 刻を意識して業務を 遂行 ●時間外が多い教 職員が固定化	67%	0%	33%	○学校でできる取組を精 一杯行っている。 ○80時間未満達成率では なく、短縮時間を評価すべ きである。	・月の時間外勤務時間の 目標値を職員個々が設定 することで、タイムマネジ メントの意識を高め、縮減し ていく。	・指標、目標値につ いて再考する。引き 続き、タイムマネジ メントの意識がもてる ようにする。

j評価 A~D 4段階評価

A: 100 ≤ (目標達成)

B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100

C: 60 ≤ (もう少し) < 80

D: (できていない) < 60